

## 今週（7月12日から7月16日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積みの最終週となったものの、先週と同様に積みの進捗が順調な先が多く、週初から半ばにかけてレートは低下基調で推移した。週初は▲0.055～▲0.018%のレンジの出合いで、無担保コールO/N加重平均レートは▲0.03%台後半となった。週半ばには出合いの中心は▲0.06～▲0.025%に低下し、加重平均レートは▲0.043%まで低下した。積み最終日の15日は、最終調整により取り上がる動きが見られ、加重平均レートは▲0.037%に上昇した。積み初日となった16日は週末要因による調達が見られ、レートは上昇した。ターム物は新積み期スタートの出合いを中心に、ショートターム物で▲0.03～▲0.02%の出合いが散見された。日銀当座預金残高は税揚げ要因により減少した14日を除き、530兆円台前半での推移となった。

7月15日～16日に開催された金融政策決定会合では、現状維持が決定された。また、気候変動対応を支援するための資金供給の骨子素案が公表された。

### ●レポ市場

今週のGC O/N物は、積み期間が切り替わる週にあたり、概ね▲0.10～▲0.075%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、2年410～426、5年140～148、10年345～363、20年170～176、30年59～71、40年10～14などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、3M・6M物が強含んで推移する一方、1Y物は引き続き動意に乏しく、横ばい圏で推移する展開となった。

13日に行われた短国買入オペは12,500億円でオファーされ、無難な結果となった。幅広い銘柄で応札が見られ、若干の需給改善が見込まれる結果となった。

15日に実施された3M物の入札は堅調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットではショートカバーの動きも見られ、強含む展開となった。

### ●CP市場

今週のCP発行市場は、複数の業態で大型発行が実施され、発行超のマーケットとなった。市場残高は期明けの調達再開の影響から、先週に引き続き伸長している。発行レートについては、新型コロナオペの担保確保の買いニーズからか、対象となる銘柄についてはその大半がマイナス圏で推移している。特に発行頻度が低い稀少銘柄や期越え銘柄に関しては、強いマイナスの買いも見られた。一方で、発行残高の多い銘柄については、レートが上昇する展開も散見された。

13日にはCP等買入オペが事前予定通り5,000億円でオファーされた。新型コロナオペの担保ニーズが強く、応札額が予想より膨らまなかった影響からか、結果は平均落札レート▲0.005%、按分レート▲0.012%と前回（平均▲0.004%・按分▲0.010%）比で平均・按分ともに低下した。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
7/12 (月)	28,569.02	0.025	110.16	△ 0.035	△ 0.080	5,319,700
7/13 (火)	28,718.24	0.020	110.38	△ 0.038	△ 0.086	5,312,700
7/14 (水)	28,608.49	0.015	110.65	△ 0.043	△ 0.100	5,295,400
7/15 (木)	28,279.09	0.010	109.91	△ 0.037	△ 0.086	5,306,700
7/16 (金)	28,003.08	0.015	109.89	△ 0.035	△ 0.088	5,312,700

## 来週（7月19日から7月21日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
7/19 (月)	月例経済報告 (内閣府)	TB1Y 35,000億円 7/20発行		
7/20 (火)	6月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB6M 34,000億円 7/26発行	流動性供給 5,000億円 7/21発行	6月の米住宅着工件数
7/21 (水)	金融政策決定会合議事要旨(6月17・18日分 8:50) 6月の貿易統計(財務省 8:50)	TB3M 53,000億円 7/26発行	交付税借入 11,000億円 7/30借入	
7/22 (木)	海の日			ECB定例理事会(金融政策発表) 6月の米中古住宅販売
7/23 (金)	スポーツの日・東京五輪開会式			

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/19 (月)	▲ 1,000	10,800	9,800	CP買入 国債補完	▲ 500 100		▲ 400	9,400	TB3M発行▲53000償還65000
7/20 (火)	▲ 1,000	▲ 16,000	▲ 17,000				0	▲ 17,000	TB1Y発行▲35000償還15100 変動15Y償還6900 エネルギー借入▲8000期日7500
7/21 (水)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000	全店共通	▲ 2,400		▲ 2,400	▲ 4,400	流動性供給▲5000
7/22 (木)	海の日								
7/23 (金)	スポーツの日・東京五輪開会式								
週間合計	▲ 3,000	▲ 6,200	▲ 9,200	—	▲ 2,800	0	▲ 2,800	▲ 12,000	

7/19は日銀予想、7/20以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、連休を控え、一部では慎重姿勢が予想されるものの、概ね横ばい圏の動きが見込まれる。レポ市場は、GC T/Nは、参加者のスタンスに大きな変化がなければ引き続きレートは横ばい圏で推移すると見られる。短国市場は、19日に1Y物、20日に6M物、21日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、22日・23日が祝日にあたり、発行案件がどの程度膨らむか注目される。

主要なイベントは、国内では20日に6月の全国消費者物価指数、海外では22日にECB定例理事会が予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。